

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	白石町立六角小学校
1 前年度 評価結果の概要	・児童の「確かな学力」に関する評価は高く、特に「家庭学習への取組」については、前回よりも5ポイント以上向上していた。日常の学習指導だけでなく、「六角っ子ががんばろう週間」の取組や、家庭の協力のたまものであると考える。ぜひ今後も継続していけるような働きかけが必要である。 ・縦割り活動の取組等により、同じ学年クラスの友だちだけでなく、異学年の友だちの良さにも目を向けることができるようになってきている反面、「自分や友だちのがんばりやよさを認めたり、見つけたりすることができた」と回答している児童は89％で1回目の91％よりやや下がってはいる。今後も、各学年や全校での児童の自己有用感、自己肯定感を高める取り組みを継続していくことが重要である。
2 学校教育目標	自ら学び、心豊かに成長し続ける児童の育成 ～ きらり チャレンジ 六角っ子 ～

3 本年度の重点目標	① 主体的・対話的で深い学びの実現・・・よりよい方法を探ろう！ ② 自己判断・決定・行動の機会の設定・・・安全に失敗する機会を増やそう！ ③ 地域・家庭との共有・交流・実践・・・今、できることをやってみよう！
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○確かな学力をつけるために、分かりやすい授業づくりへの共通理解と共通実践	○学び合い活動を通して、自分の考えを伝えたり、友達 の考えを理解したりして考えを広げ深めること ができる児童を80%以上 ○授業づくりステップ1・2・3の「話し合う活動」と「授業 の振り返り」を意識し、ステップを向上することが できる教師を85%以上	・児童に学び合いの視点をもたせ、定期的に自 己の学びを振り返ることができるようにする。 ・学び合いの共通理解を図り、考えを広げ、深め る授業づくりを行う。	・		・		・	かしこく部	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分や友達頑張りがよさを認めたり、見つけたりすることができる」と回答した児童を85%以上 ○「相手の思いやる言動ができ、協力することができる」と回答して児童が80%以上	・自分や友達の行動や作品等の良いところ見付けを教育活動の中で意図的に行うことで、認め合う心を育てる。 ・きらり広場、あいさつ運動、平和学習、人権週間などを通して、思いやりや協力する心を育てる。	・		・		・	やさしく部	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員を90%以上	・いじめの対応についての研修、会議、特別支援・生徒指導連絡会を計画的に行う。 ・「不登校対策支援シート」の活用と「心の元気チェック」、年間2回の教育相談週間等を実施することで教育相談体制の充実を図る。	・		・		・	やさしく部	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・キャリアパスポート等を活用し、自分の成長や頑張りを振り返る学習活動を特別活動の時間を中心に計画的に取り入れる。 ・児童への一日ひと褒めの実践や「きらり広場」の活用によって、児童の意欲と自己肯定感を高める。	・		・		・	やさしく部	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	○「自分の子供が起床・就寝時間を守ろうとしている。」と回答した保護者を85%以上 ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・毎週の清潔検査で自己の生活を振り返ることができるようにする。 ・保護者に対しては、「六角っ子ががんばろう週間」を通して生活習慣の定着を働きかける。清潔検査うや生活アンケートの結果を伝えることで、課題等を共有し、家庭との連携を図る。 ・年6回の登校班チェックや事前事後の指導を充実させる。	・		・		・	たくましく部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の遵守とウェルビーイングな働き方を意識し、協働を大切にしている教師を目指す。 ・放課後の時間が有効に活用できるよう、各種会議等について開始終了時刻の徹底と短縮への事前の働きかけを行う。	・		・		・	管理職	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育についての全職員の共通理解と共通実践	○特別支援教育に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・月1回の特別支援・生徒指導連絡会の実施により情報を共有する。 ・ケース会議を適宜、状況に応じて開催することで職員間の連携を図る。	・		・		・	特別支援教育C 特別支援学級担任	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○主体的に学び共に伸びる子どもの育成	○自己判断・決定・行動の機会の設定	○「特別活動を通して、自己有用感を感じている」と回答した児童を85%以上	・個々の良さを生かすためのグループ活動や縦割り活動等を計画的に取り入れる。 ・総合的な学習の時間や学級活動などと関連づけ、児童の主体的な活動を促したり、場を設定したりする。	・		・		・	やさしく部	
○地域・家庭との共有・交流・実践	○郷土愛を育む地域や人を活用した体験活動の整理と充実	○「地域や社会をよくするために何をすべきかかんがえることができる」と回答した児童を90%以上	・学校行事や教科、総合的な学習の時間等で地域の教育材(人・もの・こと)を活用する。 ・コミュニティ・スクールの推進と教育地域人材を発掘するために地域づくり協議会との連携を図る。	・		・		・	管理職	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------